

原子力政策円卓会議の開催に当たって

1. 本日、第1回の「原子力政策円卓会議」が開催されるに当たり、ご多忙中にもかかわらず、各界の第一線でご活躍の皆様のご出席を得ることができたことに対し、心から感謝を申し上げます。
2. 昨年12月に発生した「もんじゅ」のナトリウム漏えい事故は、地元の方々はもとより、国民の皆様に大きな不安感、不信感を与える結果となりました。原子力行政を預かる者として、この場をお借りしまして、まず国民の皆様に心からお詫び申し上げたいと思います。この事故によって、国民の皆様の理解と信頼なくしては、原子力の開発利用は進められないということを改めて痛感させられました。
3. この事故を契機として、福井・福島・新潟の三県の知事から、今後の原子力政策の進め方について国民的合意の形成に向けて国がより一層努力すべきである旨の提言が出されました。総理からのご指示を受け、これまでの反省の上に立って関係者で具体策を検討した結果、原子力委員会に「原子力政策円卓会議」を設置するとともに、シンポジウム、地域フォーラム等を開催するなどにより、国民各界各層の方々から幅広いご意見を伺い、これを原子力政策に的確に反映させるべく、従来とは異なる新しい試みに踏み出すことと致しました。

4. この円卓会議においては、会議の運営を6名のモデレーターにお願いする、議事を全面公開するなどにより、公開性、透明性の確保に最大限の配慮を払うことにしています。このような開かれた場において、我が国のエネルギー確保の観点のみならず、地球環境問題への対応、豊かで潤いのある社会の実現等に関し、多角的な議論が行われることを通じて、国民一人一人が原子力について自らの問題として考えていただくためのきっかけとなることを期待しています。
5. この円卓会議における根本に立ち返った議論の中で、今後の原子力政策に反映すべき事項を摘出するとともに、更に検討すべき事項が明らかになれば、原子力委員会、関係省庁等において、検討を深めていただきたいと考えます。
6. 本日の会議を嚆矢として、この円卓会議において、忌憚のない活発な意見交換が行われ、実り多き成果が得られることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

平成8年4月25日

国 務 大 臣
科 学 技 術 庁 長 官
原子力委員会委員長

中川 秀直